

一級建築士学科試験対策 オンライン講義

力学7 「たわみ」

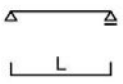
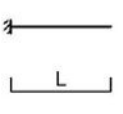
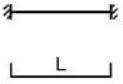


合格ロケット
<https://5569et.com/>

たわみ

基本形としてこれを覚える！

Point① 基本公式

	集中荷重P	等分布荷重w	モーメント荷重M
	$\delta = \frac{PL^3}{48EI}$ $\theta = \frac{PL^2}{16EI}$	$\delta = \frac{5wL^4}{384EI}$ $\theta = \frac{wl^3}{24EI}$	
	$\delta = \frac{PL^3}{3EI}$ $\theta = \frac{PL^2}{2EI}$	$\delta = \frac{wL^4}{8EI}$ $\theta = \frac{wL^3}{6EI}$	$\delta = \frac{ML^2}{2EI}$ $\theta = \frac{ML}{EI}$
	$\delta = \frac{PL^3}{192EI}$	$\delta = \frac{wL^4}{384EI}$	

$$\delta = \frac{PL^3}{OEI} \quad \delta = \frac{wL^4}{OEI} \quad \delta = \frac{ML^2}{OEI}$$

$$\theta = \frac{PL^2}{OEI} \quad \theta = \frac{wL^3}{OEI} \quad \theta = \frac{ML}{OEI}$$

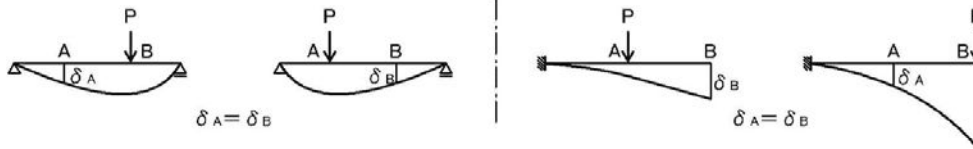
$$P = wL$$

$$M = PL \rightarrow P = \frac{M}{L}$$

単純梁：要はイチロー，三割八分四厘 ホームラン5本 西側スタンドへ
48 16 384 5 24

片持梁：サニーの野郎は二位だった
3 2 8 6 2 1

Point② マクスウェルの相反定理



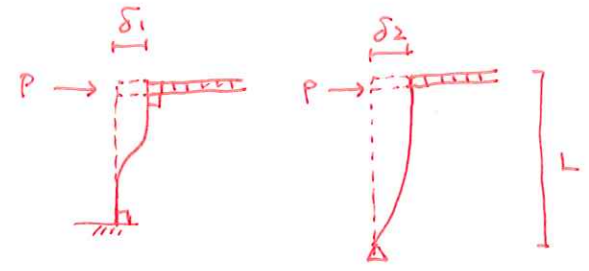
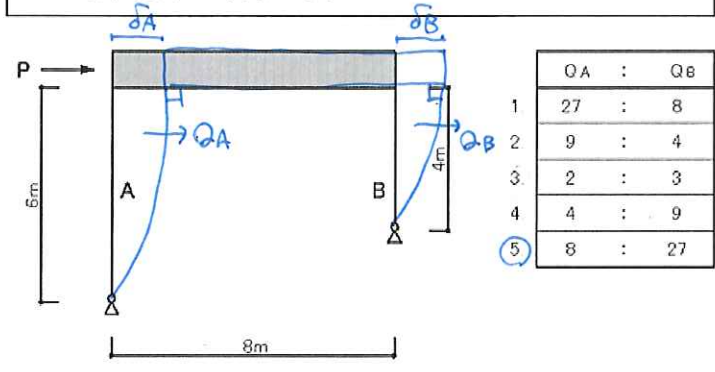
Point③ モールの定理
→インプットのコツ参照

力学7 (たわみの過去問題)

3 シリーズ (柱の負担せん断力)

問題コード 15041

図のような荷重Pを受けるラーメンにおいて、柱A、Bに生じるせん断力をそれぞれ Q_A 、 Q_B としたとき、それらの比 ($Q_A:Q_B$) として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、柱A、Bは等質等断面であり、はり^①は剛体とし、柱A、及びBはりの応力は弾性範囲内にあるものとする。



$$\delta_1 = \frac{PL^3}{12EI} \quad \delta_2 = \frac{PL^3}{3EI}$$

$$\delta_A = \frac{Q_A \times 6^3}{3EI}, \quad \delta_B = \frac{Q_B \times 4^3}{3EI}$$

$$\delta_A = \delta_B \text{ (り)} \text{①}$$

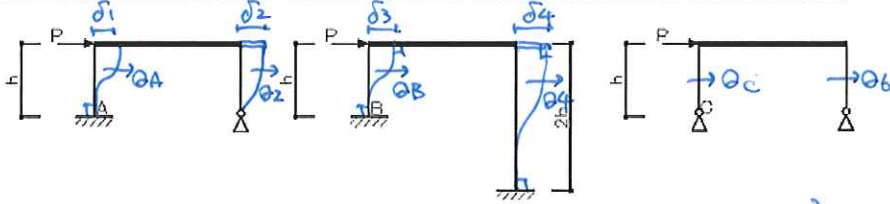
$$\frac{Q_A \times 6^3}{3EI} = \frac{Q_B \times 4^3}{3EI}$$

$$\frac{Q_A}{Q_B} = \frac{4^3}{6^3} = \frac{2^3}{3^3} = \frac{8}{27}$$

$$Q_A : Q_B = 8 : 27$$

問題コード 16031

図のようなラーメンに水平力Pが作用する場合、柱A、B、Cに生じるせん断力をそれぞれ Q_A 、 Q_B 、 Q_C としたとき、それらの大小関係として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、それぞれの柱は等質等断面の弾性部材とし、梁は剛体とする。



1. $Q_A > Q_B > Q_C$
2. $Q_A = Q_B > Q_C$
- ③ $Q_B > Q_A > Q_C$
4. $Q_B > Q_C > Q_A$
5. $Q_C > Q_A = Q_B$

$$\delta_1 = \frac{Q_A \times h^3}{12EI}, \quad \delta_2 = \frac{Q_2 \times h^3}{3EI}, \quad \delta_3 = \frac{Q_B \times h^3}{12EI}, \quad \delta_4 = \frac{Q_4 \times (2h)^3}{12EI}$$

$$\delta_1 = \delta_2 \text{ (り)} \text{①}$$

$$Q_C = Q_B$$

$$\delta_1 = \delta_2 \text{ (り)} \text{①}$$

$$\delta_3 = \delta_4 \text{ (り)} \text{①}$$

$$Q_C + Q_B = P \text{ (り)} \text{①}$$

$$\frac{Q_A \times h^3}{12EI} = \frac{Q_2 \times h^3}{3EI}$$

$$\frac{Q_B \times h^3}{12EI} = \frac{Q_4 \times 8h^3}{12EI}$$

$$Q_C = Q_B = \frac{P}{2}$$

$$\frac{Q_A}{Q_2} = 4 = \frac{4}{1}$$

$$\frac{Q_B}{Q_4} = 8 = \frac{8}{1}$$

$$\therefore Q_B > Q_A > Q_C$$

$$Q_A : Q_2 = 4 : 1$$

$$Q_B : Q_4 = 8 : 1$$

$$Q_A + Q_2 = P \text{ (り)} \text{①}$$

$$Q_B + Q_4 = P \text{ (り)} \text{①}$$

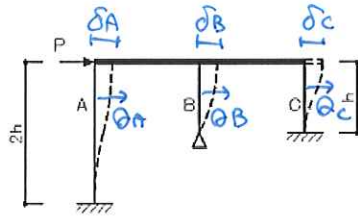
$$Q_A = \frac{4}{5}P, \quad Q_2 = \frac{1}{5}P$$

$$Q_B = \frac{8}{9}P, \quad Q_4 = \frac{1}{9}P$$

問題コード 26061

図のような水平力Pが作用する骨組において、柱A, B, Cの水平力の分担比 $Q_A : Q_B : Q_C$ として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、3本の柱は全て等質等断面の弾性部材とし、梁は剛体とする。

	Q_A	Q_B	Q_C
1.	1	1	4
2.	1	2	4
3.	1	2	8
4.	1	4	8



$$\delta_A = \frac{Q_A \times (2h)^3}{12EI}, \quad \delta_B = \frac{Q_B \times h^3}{3EI}, \quad \delta_C = \frac{Q_C \times h^3}{12EI}$$

$$\delta_A = \delta_B \quad (1)$$

$$\delta_A = \delta_C \quad (1')$$

$$\frac{Q_A \times 8h^3}{12EI} = \frac{Q_B \times h^3}{3EI} \quad \frac{Q_A}{Q_B} = \frac{1}{2}$$

$$\frac{Q_A \times 8h^3}{12EI} = \frac{Q_C \times h^3}{12EI} \quad \frac{Q_A}{Q_C} = \frac{1}{8}$$

$$\therefore Q_A : Q_B = 1 : 2$$

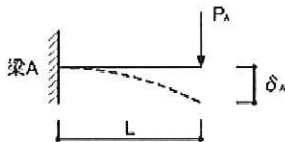
$$\therefore Q_A : Q_C = 1 : 8$$

1 シリーズ (公式直接利用タイプ)

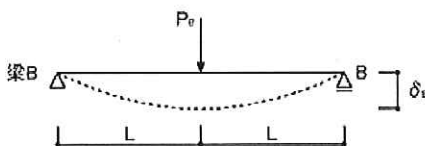
$$\therefore Q_A : Q_B : Q_C = 1 : 2 : 8$$

問題コード 30021

図のような集中荷重 P_A, P_B を受ける梁A, Bの荷重点に生じるたわみ δ_A, δ_B の値が等しいとき、集中荷重 P_A と P_B との比を求めよ。ただし、梁A, Bは等質等断面の弾性部材とする。



$$\delta_A = \frac{P_A \times L^3}{3EI}$$



$$\delta_B = \frac{P_B \times (2L)^3}{48EI}$$

	P	w	M
梁A	$\delta =$ $\theta =$	$\delta =$ $\theta =$	
梁B	$\delta =$ $\theta =$	$\delta =$ $\theta =$	$\delta =$ $\theta =$

$$\delta_A = \delta_B \quad (1)$$

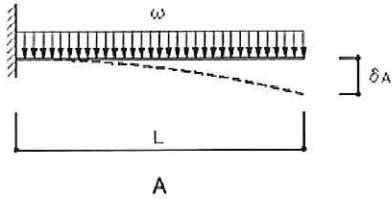
$$\frac{P_A \times L^3}{3EI} = \frac{P_B \times 8L^3}{48EI}$$

$$\frac{P_A}{P_B} = \frac{1}{2}$$

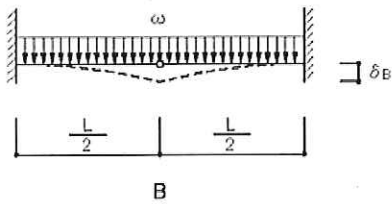
$$P_A : P_B = 1 : 2$$

問題コード 25021

図のような梁A及びBに等分布荷重 w が作用したときの曲げによる最大たわみ δ_A と δ_B との比を求めよ。ただし、梁A及びBは等質等断面の弾性部材とする。



$$\delta_A = \frac{wL^4}{8EI}$$



$$\delta_B = \frac{w \times (\frac{L}{2})^4}{8EI}$$

$$\frac{\delta_A}{\delta_B} = \frac{wL^4}{8EI} \div \frac{w \times (\frac{L}{2})^4}{8EI}$$

$$= \frac{wL^4}{8EI} \times \frac{8EI}{w \times \frac{L^4}{16}}$$

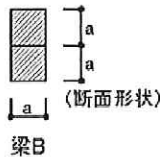
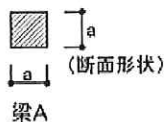
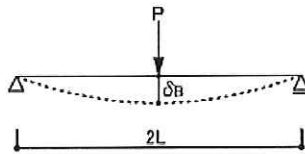
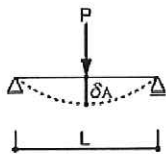
$$= 16$$

$$= \frac{16}{1}$$

$$\therefore \delta_A = \delta_B = 16:1$$

問題コード 29021

図のような断面形状の単純梁A及びBの中央に集中荷重Pが作用したとき、それぞれ曲げによる最大たわみ δ_A 及び δ_B が生じている。 δ_A と δ_B との比を求めよ。ただし、梁A及びBは同一材質の弾性部材とし、自重は無視する。また、梁Bは重ね梁であり、接触面の摩擦はないものとする。



$$\delta = \frac{PL^3}{48EI}$$



$$I_A = \frac{a \times a^3}{12} = \frac{a^4}{12}$$

$$\delta_A = \frac{PL^3}{48EI_A}$$

$$\frac{\delta_A}{\delta_B} = \frac{PL^3}{48EI_A} \times \frac{48E \times 2I_A}{8PL^3}$$

$$I_B = \frac{a \times a^3}{12} \times 2 = 2I_A$$

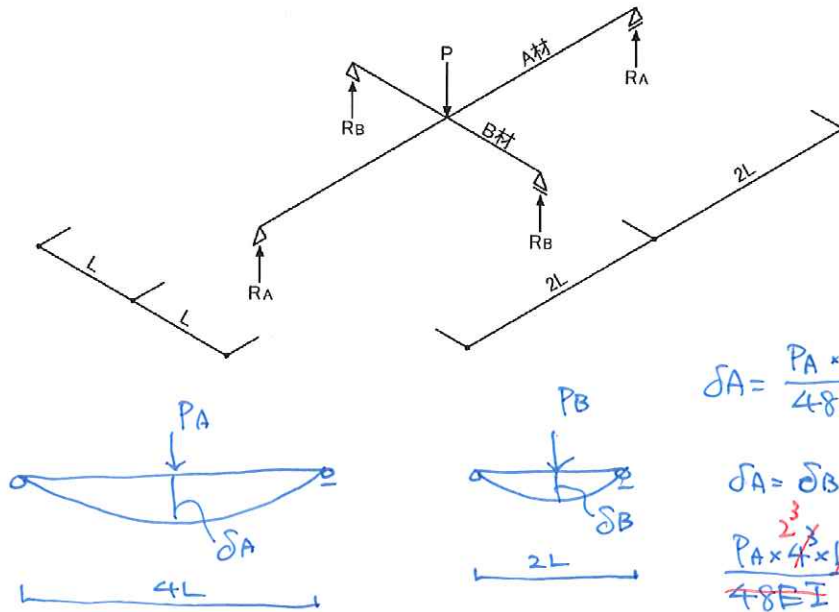
$$\delta_B = \frac{P \times (2L)^3}{48EI_B} = \frac{8PL^3}{48E \times 2I_A}$$

$$= \frac{1}{4}$$

$$\delta_A = \delta_B = 1:4$$

問題コード 02021

図に示す交差梁のA材とB材の交点に集中荷重Pが作用したときのA材、B材の支点の反力をそれぞれ R_A 、 R_B とすると、その比として、正しいものは、次のうちどれか。なお、A材とB材は等質等断面とし、梁の重量は無視するものとする。



	R_A : R_B
1.	1 : 1
2.	1 : 2
3.	1 : 4
④.	1 : 8

$$\delta_A = \frac{P_A \cdot (4L)^3}{48EI}, \quad \delta_B = \frac{P_B \cdot (2L)^3}{48EI}$$

$$\delta_A = \delta_B \quad (1)$$

$$\frac{P_A \cdot 4^3 \cdot L^3}{48EI} = \frac{P_B \cdot 2^3 \cdot L^3}{48EI}$$

$$\frac{P_A}{P_B} = \frac{1}{2^3} = \frac{1}{8} \quad \therefore P_A : P_B = 1 : 8$$

$$P_A + P_B = P \quad (2)$$

$$P_A = \frac{1}{9}P, \quad P_B = \frac{8}{9}P$$

$$R_A = \frac{P_A}{2} = \frac{1}{18}P, \quad R_B = \frac{P_B}{2} = \frac{4}{9}P$$

$$\frac{R_A}{R_B} = \frac{\frac{1}{18}P}{\frac{4}{9}P} = \frac{1}{8}$$

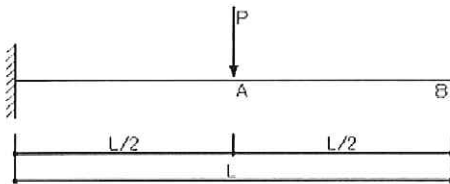
$$\therefore R_A : R_B = 1 : 8$$

1'シリーズ (変形を考慮した公式利用タイプ)

演習問題として解いてみよう! (5分間)

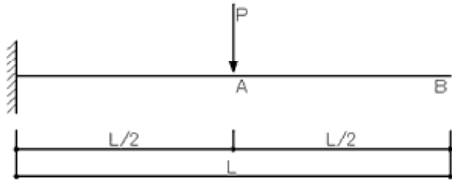
問題コード 13011

図のような片持ばりの中点 A に集中荷重 P が作用している場合、はりの自由端 B におけるたわみ角とたわみの値を求めよ。ただし、はりは、全長にわたって等質等断面であり、ヤング係数 E、断面二次モーメントを I とし、はりの質量の影響は無視できるものとする。

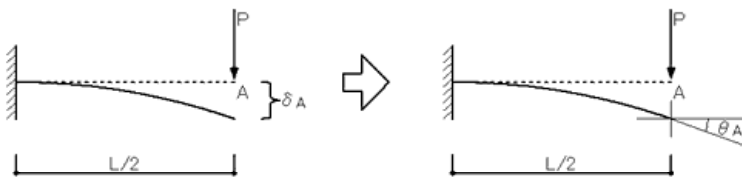


問題コード 13011

図のような片持ちりの中間点 A に集中荷重 P が作用している場合、はりの自由端 B におけるたわみ角とたわみの値を求めよ。ただし、はりは、全長にわたって等質等断面であり、ヤング係数 E、断面二次モーメントを I とし、はりの質量の影響は無視できるものとする。



解説:



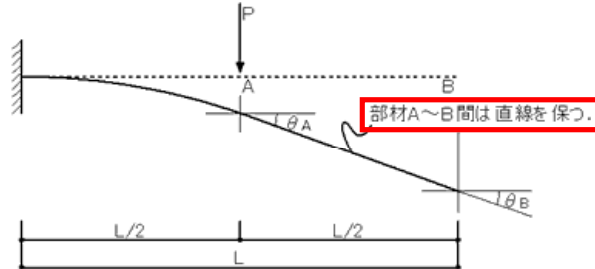
上図のように考えると、A 点のたわみ δ_A は

$$\delta_A = \frac{P}{3EI} \times \left(\frac{L}{2}\right)^3 = \frac{PL^3}{24EI}$$

右図のように考えると、A 点の回転角 θ_A は

$$\theta_A = \frac{P}{2EI} \times \left(\frac{L}{2}\right)^2 = \frac{PL^2}{8EI}$$

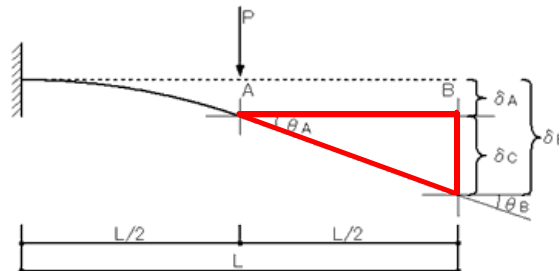
問題文に戻ると、右図において A~B 間には外力が作用しないため部材は直線を保つ。そのため、 θ_A と θ_B とは同位角の関係となり、 $\theta_A = \theta_B$ とわかる。



$$\therefore \theta_B = \frac{PL^2}{8EI}$$

B 点のたわみ角については右図のように考える。右図より、 $\delta_B = \delta_A + \delta_C$ とわかる。

$$\begin{aligned} \therefore \delta_B &= \frac{PL^3}{24EI} + \theta_A \times \frac{L}{2} \\ &= \frac{PL^3}{24EI} + \frac{PL^2}{8EI} \times \frac{L}{2} \\ &= \frac{5PL^3}{48EI} \end{aligned}$$



$$\text{解答: } \theta_B = \frac{PL^2}{8EI}, \quad \delta_B = \frac{5PL^3}{48EI}$$